

協会創立 40 周年の記念事業のテーマ

「北海道をトスカーナのように」

地域のスタイルを創造しよう

北海道日伊協会は創立 40 周年を迎える 2014 年、どのような記念行事や活動を行うかを検討し、「北海道をイタリア・トスカーナのように」というテーマを固めました。トスカーナを発祥地とするアグリツーリズムやスローシティなどの地域づくり運動に学び、豊かな自然や安全でおいしい食を生かし多くの人に喜びと安らぎを提供する「ほっかいどうスタイル」ともいべき独自の文化を広く育てるお手伝いをしていこうというものです。

トスカーナの地方を訪れた人、北海道を訪れたイタリア人が、なだらかな丘陵とパッチワーク模様の大地の景観を眺めてともに漏らすのは、「似ているなあ」という言葉です。

トスカーナ州はルネッサンスの聖地フィレンツェをはじめシエナ、ピサなど都市文化がよく知られていますが、一時過疎化に悩んだ地方の町や村は、地域の農業やワインづくり、独自の食文化などにこだわり、環境保護を重視し

たアグリツーリズム、スローシティ運動を通じて、世界から注目される新しい観光地帯を創りだしました。

我々の北海道はいま、自然豊かで、おいしく安全な食に恵まれた大地として注目され、各地で将来に向けた取り組みが芽を出しているところです。景観が似ているといっても、トスカーナやイタリア各地のワイン、食文化、自然・歴史環境へのこだわりと成果には、まだま



天に上る自転車
＝イタリアの民宿村で

だ学ぶ立場にあるのが北海道です。

イタリアを愛し敬意を抱く当協会は、今、イタリア・トスカーナに学びつつ、独自のスタイルの創造と共有を目指すこの運動の意義は大きいと考え、当協会にふさわしい役割を担おうとするものです。

40 周年記念事業の企画 (案)

【記念講演会・シンポジウム】

トスカーナ関係の研究者、安田侃さん(会員、トスカーナにアトリエ)、道内のまちづくり関係者らを招き、9 月ごろに開催を予定。40 周年記念式典も行います。

【サローネ・シリーズの拡大開催】

これまで年間行事としてきた①Salone d'Italia(イタリア談話会)②サローネ CINEMA(イタリア映画サロン)③サローネ VINO(イタリアワイン・サロン)に、このテーマに絞ったものも加え、広く一般参加を呼び掛ける形で、札幌だけでなくツアーを兼ねてワイン、チーズ産地、エコツアー先進地などでも開催していく予定です。

【北海道からの発信】

各イベントは、季刊の北海道日伊協会会報に「創立 40 周年特集」の冠を掲げ、詳細をお知らせするほか、公式ホームページに「北海道をイタリア・トスカーナのように一創立 40 年のページ」を新設し、イベントやテーマに沿った経営に取り組んでいる会社、NPO 組織、レストラン、商店、農家などを紹介、各地の日伊協会とのリンクなど通じて全国に発信して行く考えです。

「国民の父」と慕われるオペラ作曲家ジュゼッペ・ヴェルディ(Giuseppe Verdi, 1813～1901年)は、パルメザンチーズで有名なパルマ公国の町ブッセート近郊のレ・ロンコーレの家庭に生まれました。今年が生誕200年に当たります。私は人生に迷うとき、卑屈になるとき、勇気が出ないとき、ヴェルディの気品ある作品聴いて、観て元気をもらいます。この機会にイタリアオペラ史上最も偉大な作曲家について触れてみましょう。

ヴェルディは3歳にしてレ・ロンコーレの少年聖歌隊の指導者に師事し、与えられたスピネットを生涯手放さなかったという早熟な子であった様です。

家庭生活は決して恵まれたものではありませんでした。父カルロは、町の裕福な卸売商人で教養ある熱心な音楽愛好家のアントニオ・バレツィに息子の援助を頼みます。ミラノで学んだヴェルディは、23歳にしてブッセートの町の音楽監督に。そしてバレツィの娘マルゲリータと結婚し、この年(1836年)処女作オペラ『オルベルト』を完成させます。娘ヴィルジーニャが生まれ、2年後には息子イチリオも誕生しますが、その1ヵ月後にヴィルジーニャが急逝。そして翌年にはイチリオも亡くなります。ふたりの子供を失った失意の中で『オルベルト』はミラノ・スカラ座で初演、飛躍への足掛かりをつかみます。ところが今度は妻が脳膜炎で急逝するのです。27歳のヴェルディは音楽で希望が膨らんだその時に、妻と子の全てを失ったのです。

こうした若いころの絶望的な体験が、彼の作品に反映されています。生涯作曲した27本のオペラのうち、今日も愛されている代表作12本を見比べても、その素晴らしさに感動しつつ彼の人生を垣間見る事が出来ます。登場人物の言葉が音楽と一体となって聴衆に押し寄せてくるのです。

1842年3月9日、ミラノで初演された「ナブッコ」が大成功をおさめます。

「わが思いよ、金色の翼に乗って行け」

三部 安紀子

人生！音楽の旅

⑰

ヴェルディ生誕200年

「情」を表現、人々を鼓舞する「国民の父」

時はイタリア統一の戦い繰り返された時代。ヴェルディのオペラが人々を奮い立たせ、「国民の父」といわれる存在となったのです。その大きな理由は、彼の音楽がイタリア人の「情」を見事に表現できたからでした。

ヴェルディはすべてのイタリア人が感じる矛盾をオペラで表現し続けました。その後の作品には彼の運命との出会いの如く、力強く、それでいて親子の愛情の深さ、特別な思い入れが込められます。

ヴェルディの言葉は次の様に書かれています。

「古典に帰ろう、そうすれば進歩が生まれるであろう」
「奔流は氾濫するに任せよう。堤防はあとで役に立ってくれるだろう」

ヴェルディは決して革命家ではなく、最後までイタリア音楽の伝統の流れを意識して作曲し、イタリア初期の巨匠達にも讃えられました。

ヴェルディは控え目で、青春時代についても多くは語りませんでした。出版社から回想録を書くように求められた時、「音楽界がこんなにも長い間、私の音楽に耐えなければならなかっただけで充分です。私は自分の散文を人に読ませるなどということは絶対しません」と断りました。

私はヴェルディオペラそのものの舞台は踏んでいません。では、どうしてヴェルディに魅されているかという、人間関係の情愛、それは恋愛のみならず家族との深い結びつきが必ず彼の作品にあるからです。自ら体験した人生の虚しい切なさ

が作品に隠されていて、そういう人間愛の深さの表現に共感し、頑張らねばと勇気を貰えるのです。余計な事を口走らない男らしいヴェルディを心から尊敬します。

(会長、北海道二期会理事長、みべ音楽院長)



愛されるヴェルディの世界=12月28日からシアターキノで上映

第4回 サローネ CINEMA 2月7日(金)に決定

「二人のトスカーナ」

監督:アンドレア&アントニオ・フラッツィ
 主演:イザベラ・ロッセリーニ、イェルーン・クラッペ
 2000年ジッフォニ青少年映画祭 金賞受賞作品

午後6時30分から見どころ解説のあと上映。終了後懇談、午後9時過ぎ閉会。

会場 みべ音楽院 札幌市中央区大通西14丁目(南向き)

詳しくはホームページ <http://aig-hokkaido.com> 参照。参加ご希望の方は事務局 電話 011・241・0345 へ

秋季実用伊語検定

札幌の合格率 **準2級** **3級** 全国3位

全国受験者 4年振り 2000人の大台

10月6日に実施された第37回実用イタリア語検定の志願者は全国で2,025人と昨秋の1,905人に対し、約6%増となり、2009年秋季以来4年ぶりに2,000人の大台を越えました。特に地方での増加傾向がみられ、とりわけローマでの増加が顕著でした。その理由として、準2級が増設されたことなどが挙げられています。

札幌会場は志願者53人、受験者45人で、合格者20人。合格率44.4%でした。

全国(15会場)の受験者は1,755人で、合格者は712人、合格率は40.6%でした。札幌会場は、全会場ランキング第4位に位置します。とくに、札幌は準2級の合格率57.1%、3級合格率66.7%で、それぞれ全会場中第3位の好成績でした。ミラノ、ローマを除く日本13会場の合格者678人中、札幌の合格者20人は3%にあたり、公的伊語教育機関のない北海道としては健闘していると言えるのではないのでしょうか。それぞれの場でイタリア語教育に関わっておられる北海道日伊協会会員の皆様の貢献も大きい気がします。

■ M・C・エッシャーとジャポニスム講演会

外国語ボランティアネットワーク・ロマンス語セミナーとして9月28日(土)札幌市中央区の国際プラザ3階会議室で開催され、北海道日伊協会理事の革絵作家・喜井豊子さん(写真㊦)が講師を務めました。ライフワークだけに、北斎や広重らの浮世絵とエッシャーの多くの作品を比較しながら、だまし絵で知られるこのアーティストの



原点ともいえるジャポニスムを分かりやすく解説してくれました。

第38回(2014年春季)検定は3月2日(日)に実施されます。申込期間は、12月20日～1月19日です。検定要項、会場アンケート結果、受験地別志願者・合格者数、正解表、会報Le Aliの一式が事務局に届いています。会員、講師、伊語講座受講生、受験予定者など、必要な方はご一報ください。

(事務局)

編集後記

40周年のテーマと考え方について議論のまとめを掲げました。具体的な肉付けはこれから。会員の皆さんの知見と行動力を総動員して実りある年にしたいものです▼フロントページの写真は島村菜津さんの『スローシティ』(光文社新書)から拝借。リグーリア州のアプリカーレ村にある教会です。世界の均一化と闘うイタリアの小さなまちには実に刺激的。一読をお勧めします▼会報が50号になりました。忙しい中、執筆いただいた多くの会員の皆様に支えられてこれまでたどり着きました。今後も会員同士の接着剤として、発信の役割を果たします(彦)